

中 央 区 内 景 気 動 向 調 査

令和 6 年 4 月調査結果

令和 6 年 5 月 3 1 日

中 央 区

— 総 括 —

令和6年4月の動き

中央区内における4月の現状判断DIは合計で59.0と、前回調査から0.5ポイント上昇している。景気の先行き判断DIは合計で53.7と、前回調査から0.6ポイント低下している。

図表 景気の現状判断DI、先行き判断DI（合計）

（DI）	令和5年	令和6年		前回調査
合計	12月	2月	4月	からの変化
現状判断DI	54.9	58.5	59.0	（0.5）
先行き判断DI	56.5	54.3	53.7	（-0.6）

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、令和 6 年 4 月調査の調査票発送は 4 月 8 日（月）回答期限は 4 月 17 日（水）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 47 名、有効回答率は 94.0%であった。

7 D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、D I を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる （良い）	やや良くなる （やや良い）	変わらない （どちらとも いえない）	やや悪くなる （やや悪い）	悪くなる （悪い）
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断D Iは合計で59.0と、前回調査から0.5ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連D Iは59.1と、前回調査から5.7ポイント低下し、企業動向関連D Iは59.0と、前回調査から6.0ポイント上昇している。構成比では、「やや良くなっている」と回答した人の割合が10.6ポイント増加し、「変わらない」と回答した人の割合が8.5ポイント減少した。

図表1 - 1 各分野における景気の現状判断D Iの推移表

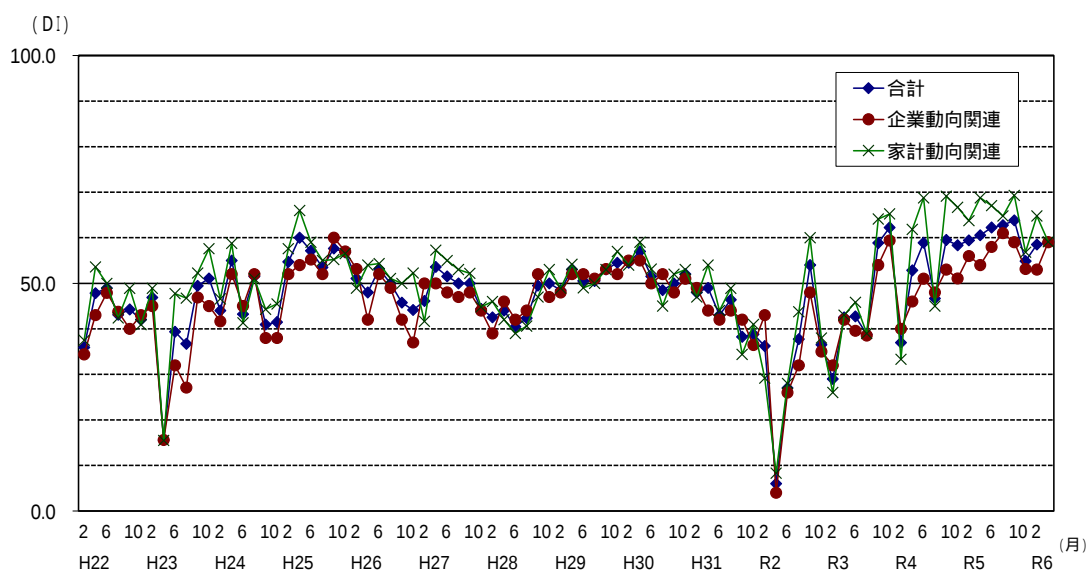
(D I)	令和5年		令和6年	
	12月	2月	4月	(変化幅)
合計	54.9	58.5	59.0	(0.5)
家計動向関連	56.8	64.8	59.1	(-5.7)
小売関連	52.1	60.4	58.3	(-2.1)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	62.5	75.0	58.3	(-16.7)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	53.1	53.0	59.0	(6.0)
製造業	45.0	45.0	55.0	(10.0)
非製造業	55.3	55.0	60.0	(5.0)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1 - 2 構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
令和5年	12	6.5%	28.3%	47.8%	13.0%	4.3%
令和6年	2	12.8%	23.4%	53.2%	6.4%	4.3%
	4	8.5%	34.0%	44.7%	10.6%	2.1%
(変化幅)		(-4.3)	(10.6)	(-8.5)	(4.2)	(-2.2)

図表1 - 3 各分野における景気の現状判断D Iの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月前の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で53.7と、前回調査から0.6ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連D Iは50.0と、前回調査から12.5ポイント低下し、企業動向関連D Iは57.0と、前回調査から10.0ポイント上昇している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が8.5ポイント増加し、「やや良くなる」、「悪くなる」と回答した人の割合がそれぞれ4.3ポイント減少した。

図表 2 - 1 各分野における景気の先行き判断 D I の推移表

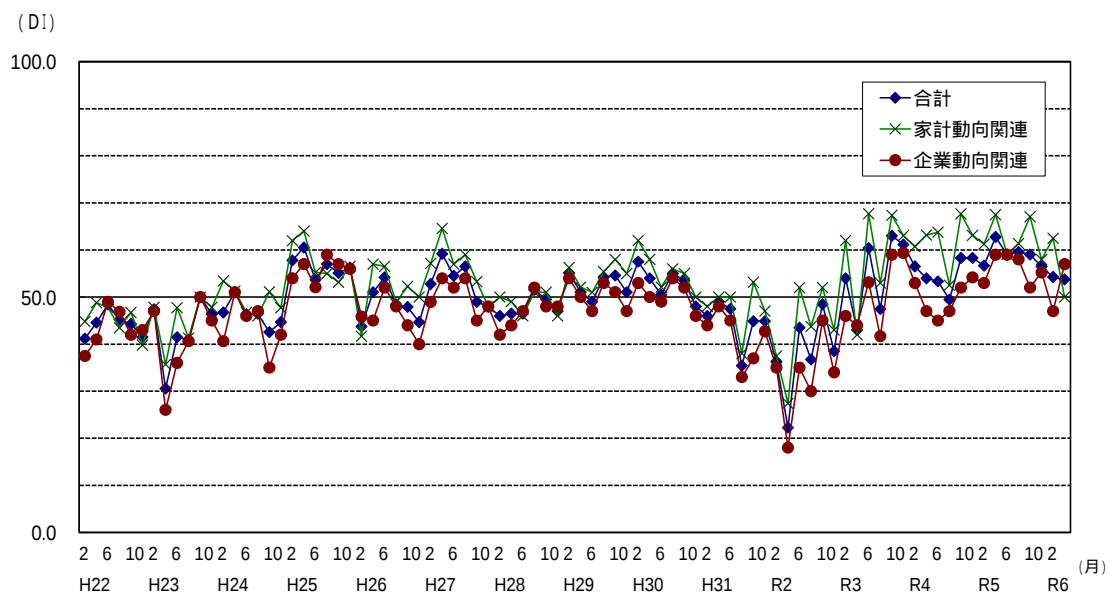
(D I)	令和 5 年	令和 6 年		
	12月	2 月	4 月	(変化幅)
合計	56.5	54.3	53.7	(-0.6)
家計動向関連	58.0	62.5	50.0	(-12.5)
小売関連	56.3	56.3	52.1	(-4.2)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	62.5	70.8	50.0	(-20.8)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	55.2	47.0	57.0	(10.0)
製造業	40.0	35.0	45.0	(10.0)
非製造業	59.2	50.0	60.0	(10.0)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表 2 - 2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和5年	12	6.5%	32.6%	45.7%	10.9%	4.3%
令和6年	2	6.4%	27.7%	48.9%	10.6%	6.4%
	4	4.3%	23.4%	57.4%	12.8%	2.1%
(変化幅)		(-2.1)	(-4.3)	(8.5)	(2.2)	(-4.3)

図表 2 - 3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

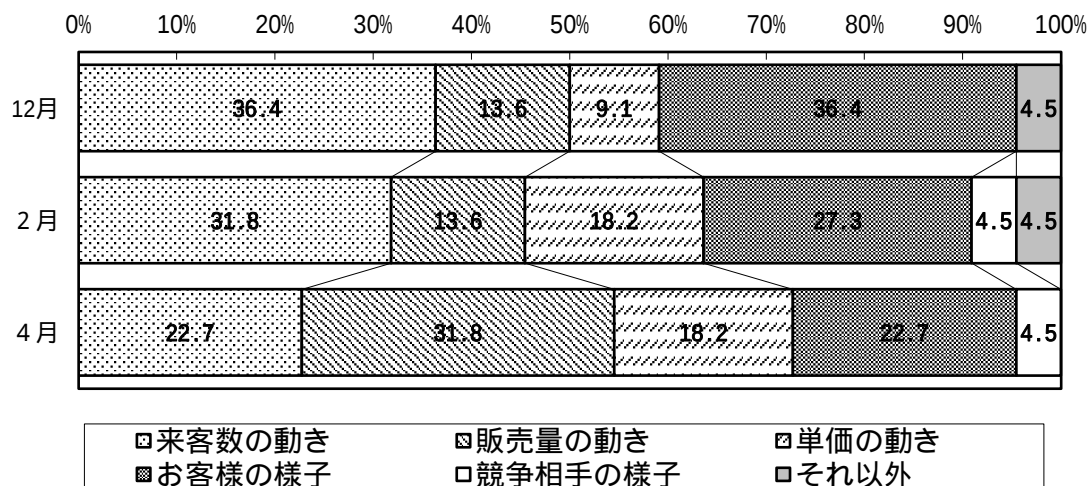
(D I)	令和5年	令和6年	
	12月	2月	4月
合計	56.0	53.7	59.0
家計動向関連	63.6	63.6	64.8
小売関連	60.4	64.6	66.7
飲食関連	-	-	-
サービス関連	62.5	62.5	62.5
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	49.0	45.0	54.0
製造業	40.0	25.0	45.0
非製造業	51.3	50.0	56.3

（備考）家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

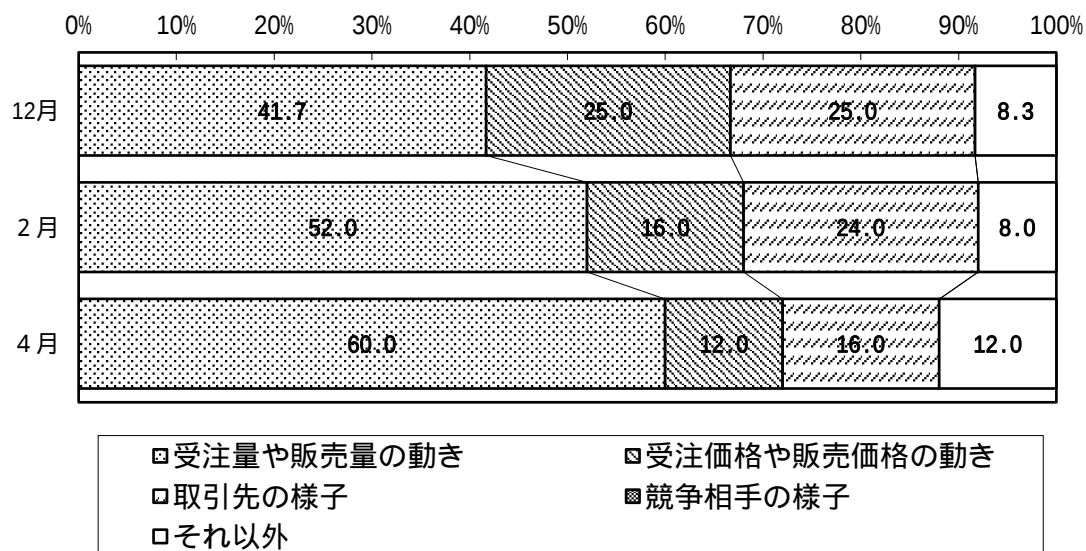
（注）景気の現状をとらえるには、景気の方方向性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、○ : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	一般小売店〔文具〕(販売担当)	来客数の動き	・インバウンド客が2～4月と前月比で10%増加している。
		都市型ホテル(営業担当)	来客数の動き	・客室の稼働、レストランの来客数共に好調である。
	やや良くなっている	百貨店(総務担当)	販売量の動き	・高額品、インバウンド、物産催事等がおおむね好調に推移している。来街者数、購買量共に活発である。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・来客数が前年比で125%と増加している。インバウンドの来客数は前年比で160%と大幅に伸びており、単価も大幅に上がっている。
		高級レストラン(副店長)	単価の動き	・高額コースの予約が増えてきており、フリー客もコース注文が増えている。
		一般レストラン(経営者)	販売量の動き	・気候が良くなり、インバウンドの動きが順調である。このまま推移していけば有り難い。
		都市型ホテル(経営者)	単価の動き	・外国からの来客数の増加と、それに伴う単価の上昇がみられる。
	変わらない	一般小売店〔事務用品〕(営業担当)	販売量の動き	・年度末需要のお陰で売上は良くなっているが、市場の動き、特に、物販は余り良さを感じられない。
		百貨店(総務担当)	お客様の様子	・円安を背景に、訪日観光客の旺盛な買上動向が継続している。一方、値上げ等で国内客の動向を不安視する報道もあるが、株高により富裕層の堅調な消費が引き続き全体をけん引している。
		百貨店(広報担当)	お客様の様子	・高付加価値消費への関心は引き続き高い。インバウンド消費も高い基調が継続している。
		スーパー(店長)	単価の動き	・売上が伸びていかない。
		コンビニ(店長)	来客数の動き	・当店については、消費行動そのものが変わっているので、改めて来店につながる店作りをしなければならない。
		乗用車販売店(店長)	販売量の動き	・新車、中古車の販売台数はこれまでと同様で、大きく増減していない。
		高級レストラン(経営者)	お客様の様子	・予約状況は約2週間先まで埋まる傾向にあるが、最近はキャンセル件数も2割近くまで増加している。新年度を迎え、歓送迎会に複数店を仮予約する方も多く見受けられる。前年比では営業成績は変わらない。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・3月は観光客が多く来るようになったが、4月に入って来客数が減ってきている。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・今年度に向けた契約等の調整のなかで、契約数、金額に関して客から前年度並みの対応を求められている。
	やや悪くなっている	理容室(経営者)	お客様の様子	・50代の客が金額を気にしており、単価の安い方を選択している。
	悪くなっている	-	-	-
企業 動向 関連	良くなっている	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・半導体の値上がりの影響で、販売価格がコロナ前の2倍程度に上昇したが、余りその影響を受けず、販売量を確保できている。
		不動産業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・大手オフィス調査会社のデータでは、中央区内のオフィス空室率は4か月連続で改善している。また、館内増床(拡張)や新規拠点ニーズの話も多く聞かれる。
	やや良くなっている	新聞業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・業種によって事前の見通しを上回る受注先が目立ってきている。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・各社の設備投資が増えてきている。
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・幾つかの取引先で今年度の投資計画が進んでいる。
		卸売業〔繊維・衣服等〕(経理担当)	受注量や販売量の動き	・1～3月まで売上予算を達成しており、前年比でも100%を超えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比べると、受注価格が15%程度増加している。
	変わらない	出版業（経営者）	それ以外	・レストランはにぎわっており、観光スポットへの人も多い。その一方で、ディスカウント店には節約志向の人々が群がっている。物価上昇の先行きは不透明である。
		出版業（営業担当）	それ以外	・中小企業では大手企業にみられる賃上げは実施できず、現状維持がやっとである。物価が上がっているのに、生活にゆとりは感じられない。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・このところ低調のまま推移している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・インバウンドが増加しているものの、外国人に人気のある適地でなければ売上はそれほど増加していないので、余り変化はないようである。日常生活はほぼ同じである。
	やや悪くなっている	印刷業・製本業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年を割り込んでいる。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	それ以外	・年度を越えた受注残があり、例年より売上がある。
	悪くなっている	-	-	-

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、○ : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔文具〕 (販売担当)	・現状においてマイナス要素はない。雨天の日が弱点であった当店でも、降雨日の来客数、売上共に好調である。
	やや良くなる	百貨店(総務担当)	・再び値上げラッシュのニュースなど、意欲をそく話題が続いているものの、買い控えていても価格は上がる一方だと半ば諦めて、必要な物は購入する様子が見受けられる。
		衣料品専門店(店長)	・円安が進み、更にインバウンドが増加している。売上好調のためスタッフを増員している。飲み会も完全に復活しているので、以前よりも消費している。
		都市型ホテル(経営者)	・今後もインバウンド増加に伴い、来客数の増加が見込まれる。
		旅行代理店(店長)	・海外旅行需要の増加が見込まれ、申込み件数が前年比200%超となっている。
	変わらない	一般小売店〔食品〕 (店長)	・マンション等の建設が落ち着き、周囲の環境にも変化がなさそうである。
		百貨店(総務担当)	・今後も為替の動向には大きな変動がないものと考えているため、基調は変わらない。
		百貨店(広報担当)	・外部環境が大きく好転すること、後退する材料も現時点で見当たらない。賃金の上昇により自由に使えるお金が増加し、個人消費の2極化がより鮮明になる。
		スーパー(店長)	・ここ数か月のトレンドから、変わらない。
		コンビニ(店長)	・消費行動が変化しており、店の使われ方そのものが変わっている。
		衣料品専門店(店長)	・原価及び商品価格の上昇により客単価も上がっているが、買上客数が減少しているため、結果として売上は現状維持が精一杯である。
		乗用車販売店(店長)	・2～3か月後では大きな変化はない。
		高級レストラン(経営者)	・新年度が始まり、新型コロナウイルス感染症等の影響がなくなり、宴会数も増加しているが、予算が少なくなってきたようである。物価の上昇も影響している。
		高級レストラン(副店長)	・6月は株主総会後の会食の予約が入ってきているので、悪くならない。
		一般レストラン(経営者)	・例年、ゴールデンウィークは忙しい。また、修学旅行生が少し戻ってきているため、少しは忙しくなる。
		都市型ホテル(営業担当)	・ゴールデンウィークの人流により変化がある。
		通信会社(営業担当)	・円安も含めて、何かが改善される要素が見当たらない。
	やや悪くなる	一般小売店〔事務用品〕 (営業担当)	・年度初めの売上は多少あるものの、これといった期待はない。また、インバウンドもそれほどの効果を感じない。
		一般レストラン(経営者)	・毎年のことだが、気温の上昇に伴い売上も悪くなる。対策を考えているが、なかなか出てこない。
		競馬場(職員)	・物価の上昇がしばらくは止まらない。
		理容室(経営者)	・物流コストや諸物価が上がり、生活費を圧迫し始めている。また、通常の配送時間が長くなってきている。
	悪くなる	一般小売店〔和菓子〕 (経営者)	・円安が進み、物価の上昇も止まらない。
企業 動向 関連	良くなる	不動産業(企画担当)	・オフィスビル、分譲・賃貸マンション、商業施設、物流施設、ホテル、いずれの分野も引き合いが好調である。
	やや良くなる	印刷業・製本業(営業担当)	・値上げについて、取引先より一定の理解を得たため、利益の確保につながっている。
		建設業(営業担当)	・株価や賃金の上昇、金利の変更にやや良くなる。
		建設業(経営者)	・先行の仕事の話がきており、年内若しくは年明けも現況より仕事量が増加してくる。
		通信業(営業担当)	・取引先の様子だが、以前より動きが活発化している。事業所移転や在宅勤務をするための効率化の要望が多い。
		卸売業〔飲食料品(鮮魚)〕 (経営者)	・夏に向かい、世の中が活動的になっていく。円安によりインバウンドも順調である。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕 (営業担当)	・新年度に入り、必須に近い内容の案件ではあるが、少しずつ依頼を受けることができていく。前年に、新型コロナウイルス感染症収束後の正常なシーズンとして、予算を計上しているためではないか。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕 (管理担当)	・今年度の定期業務費用で値上げを認められた現場が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	出版業（経営者）	・先行きが不透明である。
		出版業（営業担当）	・販売量、広告収入共に増える傾向にはなく、物価がこのまま上がっていくと、明るい見通しはない。
		建設業（営業担当）	・令和6年度の仕事の発注状況がまだ分からないので、見通しが立てられない。
		建設業（経営者）	・全体の仕事量は増加傾向にあると思われるが、物価高が足を引っ張る。
		輸送業（従業員）	・値上げは難しく、賃金上昇につながる原資を確保できない。
		通信業（営業担当）	・収入増よりコスト増が上回る状況もあり、利益に結び付いていない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・日銀の金融政策が見直されても為替の円安傾向が続いている。実際に10年債利回りが1年前の倍近くになっていても、消費活動が活発なのはインバウンド需要のみといった状況にある。春闘におけるベースアップの気運は確かにあったものの、実質賃金の停滞が持続する状況からして、当面は現状レベルの景況が続く。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・改善が期待できるような要因がない。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	・物価に加え、運賃も上昇している。人手不足が解消されない。アナログ回線の廃止、インボイス制度の導入に伴い、機器の更新又はサービスの低下を招いている。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経理担当）	・業界としては余り良い状況にはない。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・当分の間、特段の変化はない。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・大きな受注はなく、今月と同じくらいの売上予想である。
		卸売業〔機械器具〕（支社長）	・受注の利益率が上がらない。
		経営コンサルタント	・中小企業も含めて労働賃金が増加傾向であるが、その分社会保険料を中心に、税金がステルス的に増加してくるので、財布のひもはそれほど緩まない。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・分かりやすく景気が良くなる又は悪くなると見込まれる要素は特にない。
	やや悪くなる	新聞業（営業担当）	・もともと抑制気味の見通しに比べると、受注増が目立つ業種はあるものの、経年変化としては引き続き弱含みとなっている。
	悪くなる	-	-

（別紙） 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連	家計動向関連	25
	小売関連	15
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	1
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	1
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	6
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	1
	通信会社社員	1
	レジャー施設関連	1
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	0
	その他サービス	1
	美容室経営者・従業員	1
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連	企業動向関連	25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業（精密機械を含む）	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0